

(日々いふた事ハで) きんやない なれとにざりたら すつきりした事できん どつさりにこつたら どをもとをれん にこりたら いすれへあらわにやならん すまさやならん にこりたせんだくへかわかして 十分かわかし しはのよりたる処ものばし すつきりそうじせにやならん 一寸いてたすねて こふといへと 身上せつなみあれば とふもたすねる事なるふまい 一つてきん 一つできん だんへ」(80ウ)

できんよふになれば とをする どをでもこふでも一つのさとし とをしてくう こふしてくふ 土の中におほつてある事ハあしつける事もてきん かけんわかろまい 是迄ふせこんたる事上ヨリ よふしやんせよ これたけさとしかけるによつて

おして御うつり旧正月十日

さあへ事情ハせんもつてはこびへ はこび事情ハまかせおいたるへ 何も」(81オ)

とめもせにや のばしもせにや とをでもまかせたるといゑばまかせたる なれど事により うすもれたるへから にこるへから身上かくもる けふゆふてあすならんよな かつてのよい事ハミなそふなれと かつてわるい事ハ一寸もそろわん 是だけさとしておくによつて さとしの道とをてもこふでも通りてくれにやならん」(81ウ)

25 明治廿七年二月十二日 旧正月七日 本席様御うつりの御祝十日十一日両日御願

さあへたすねる事情へ さあへ一日二日 両日たすねる処 願通りだしあいとふり すみやかゆるしおこふおこふ さあへミなへいさめばいさむ さあへはじめる はしまるへで 又はしまるへ みないさんで はこんでくれるよふ」(82オ)

分支教會重立役員を御本席北側御座敷二於て御神酒を戴き夫より本部二階ニテ饗応ノ事情

さあへ尋る処へミな尋にやわからん こふとをもふたとて尋ねはわからん 尋ねて差図通りすれハ みな一ツへおさまる 尋ねは まちがふ まちかへはいずむ いすめば どをなるともわからん さあへ席をたてた事情によつて こふと云ふ 又こふといふ かる」(82ウ)

くして事情といふ 日々心のさぐりやい 里にあたわず さくられてあたわす 尋ねて差図通りすれハまちかわん たれが気さわりもない あいそもしなも咄しや とふい処ヨリたのしんででくくる 又みてこふかと云ふ 是わとをもならん とをくよりでくくる処 其日ハ皆ゆるす はいる事ならんとハ かならず云ふやない 一間文ケハはいるのわかまわん なれど」(83オ)

まねをしたり さわへしたり ものもつて はいる事ハならん 席一代の里 とりつぎそはへよれんよふな事ではいかん それてハあつかへ人とわゆゑん 同座にゆるしおこふ はいるふとおもへと はいれん のぞくはかして あしあとむけるやない とこへいけん どの間へはいれんとゆふやない よふきゝわけ 親里 親の内へもとりてくるのや これた」(83ウ) さとしたらわかるやろう さあすうきりまかせおこふ

(注)これより5行前、「あつかへ人とわゆゑん」は正文では「扱い人とも言えん」とある。他は細かいところに違いはあるが、ほぼ正文通り。

26 明治廿七年旧正月九日 夜 刻限御咄し

さあへ一寸はなしかける どふゆふいふ事咄しするやらしれんで けふいてこふ あすいてこふ きのどくなものや かわいそうなものや 同じ屋敷二いて とんな事見るやらな きくやらな としがたつ 年の中にもよき事ばかりやないで めいへの身上で」(84オ)

あつて身上でない どんなかたきのよふなものでも どんなかたいものでも やらこふなる とんな事咄すやしれん 咄しやへ 里をはなする 我身上が我身上なら思ふよになる なれとわか身上て わかるわからんといふわ しよこふといふよふなものや ころつとりよがちがふ二よつて しよふがない 身上わからんよふになつてから とをもしよふかない たかいやたすけ」(84ウ)

やいと口でいふばかり 助けやいわいらぬもの 心からたがいやたすけやいとゆふでなければならん 一度にすくと受取あれでハ心かわからん さんねんなへ とんな事見るやらきくやら とをい処で もふこれとんな事情があるとても 身上がたしやでありても とりかやすところがない あよふなふしゆさそふ なんぎさそふと云ふ親ハない なれと鏡屋敷 心どおり」(85オ)

あらわれる とんなたてやいあるやらこれしれん たてやいと いへ中にわよい事もある とんな事あるやら これしれん あすたてやいの里になつてから とをもしよふかない 此道も通りたるはかりである 人にわられ 人にゆわれて わか身不自由があらわれてもしよがない 道を見ていつばし まにおもふてもある 三ツツの里があらわれてある 道のためにもへ 萬事心得」(85ウ)

のためまて 事情里をしらしおく

(注)明治27年旧正月9日は、陽曆では、同年2月14日である。

これも正文とは細かい違いが見受けられる。ただ84ウの一行目の「どんなかたきのよふなものでも」という一節は、正文には見られない。

27 明治廿七年旧正月九日 増野様函のいたみノ御願

さあへ尋る事情へ たへられん事情でのふて 心にわすれられん 尋るからさとす 身上さわりと云ふ 尋ねてこふとおさまれば 身上おさまるがさしず よふきゝとれ 中にな事情一寸大もふへの中 かゝるやいなや よふへ」(86オ)

おさまる 心いかなるふしぎ すみやか てきわかりたる あとへふしぎさとしかける 一寸にわいかん またいそぐやない 事情きゝとれ 一処や二処へはいかん 身上から尋たらこふいふさしすがありた さしすからをさめて世界事情 けふの事情 かくそふにもかくされん あるほどの里ハ八方といふ よふへおさまり またあとへといふ めんへに一ツの事情」(86ウ)